



2013.10.8

## プレスリリース

沖縄・生物多様性市民ネットワークによる「沖縄市サッカー場調査・評価プロジェクト」  
ダイオキシン類研究の第一人者である摂南大学名誉教授宮田秀明からの意見書をリリース  
——沖縄・生物多様性市民ネットワークから関係機関に送付

沖縄・生物多様性市民ネットワークは沖縄市サッカー場の調査結果を評価する活動をしています。

この度、沖縄市諸見里サッカー場工事現場調査について、ダイオキシン類研究の第一人者である摂南大学名誉教授宮田秀明から意見書「沖縄市諸見里サッカー場工事現場の調査結果に対するコメント」が届きましたので、関係機関に別紙文書で周知し、送付します。

この意見書は沖縄防衛局と沖縄市が実施した調査におけるドラム缶の内容物の調査結果の相違にダイオキシン類のデータから着目し、その相違がサッカー場の工事現場の汚染の性質を示していることを指摘した大変貴重な意見書です。

- 例：・ダイオキシン類の毒性当量の相違 (p1)  
・1検体における同族体の組成比 (同族体組成比) (p2)  
・同一ドラム缶の付着物における 2,4,5-T (p3)

宮田氏は以下のように分析を総括しています。

「当該地域に埋設されていたドラム缶付着物には、多様な 2,4,5-T 製品、農薬の PCP、焼却関連物質、PCB などの混合物に由来するダイオキシン類で汚染されていたものと推測される。また、調査結果から、ドラム缶に封入された内容物は不均一であるため、汚染源物質の種類・濃度やダイオキシン類の濃度・構成組成が大きく相違したものと判断される」 (p5)

これは、愛媛大学の本田教授なども指摘するように、沖縄市のサッカー場汚染は「複合汚染」の可能性が高く、今後の跡地の汚染調査もこのような汚染の可能性を念頭に対応していくことの必要性が示唆されます。

また、この分析結果は沖縄市の独自調査があつての評価であり、クロスチェックや第 3 者の専門家の評価が重要であることも示しています。

[意見書執筆者]

宮田秀明 (摂南大学名誉教授)

岩波新書『ダイオキシン』(1999) など著書・論文多数。

Tel/Fax: 072-852-8233 e-mail: [miyata@m3.dion.ne.jp](mailto:miyata@m3.dion.ne.jp) 携帯電話：090-3860-9501

この件の連絡先

沖縄・生物多様性市民ネットワーク

ディレクター 河村 雅美 [masamime1.k@gmail.com](mailto:masamime1.k@gmail.com) 070-5482-0084